

平成30年度 日南市立榎原中学校 評価指標に対する努力事項及び自己評価【①…2学期末評価、②…年度末評価】

【学校経営ビジョン】 学校の教育目標具現化に向けて教職員の資質向上を図り、保護者や地域社会と連携を深めながら子どもの知・徳・体バランスのとれた成長と、将来にわたってたくましく生きていく力を育む教育活動を推進する。

< 4段階評価 4：達成（期待以上） 3：ほぼ達成（ほぼ期待どおり） 2：不十分（やや期待を下回る） 1：改善を要する（期待を下回る） >

評価項目	評価指標	平成30年度 努力事項	自己評価①	教職員によるコメント（2学期）	自己評価②	成果・課題及び改善策（○成果 ☆課題及び改善策）	
感動する心、自他の命や人権を尊重する心、共生や寛容の心など豊かな人間性を育む。	1 全教育活動を通じた道徳教育の展開と道徳の授業の充実	①道徳教育推進教師が各種研修会に積極的に参加し、その内容を校内研修で共有して指導する。	3.4	○夏季休業中に道徳教育校内研修を行い、校外での研修内容について、全職員で共有できた。 ○今年度の別業は作成した。次年度分については、冬休みから3学期にかけて作成予定である。	3.2	○冬季休業中にも道徳教育研修報告を行い、次年度の道徳の教科化に向けての実践内容等を全職員で確認できた。 ○次年度分の全体計画について共通理解を図るとともに、別業についても3学期中に作成する準備を整えた。	
		②道徳の年間指導計画において、別業（他の教育活動との関連一覧）を作成する。	3.4		3.5		
	2 キャリア教育の推進	①キャリア通信を月1回発行し、キャリア教育への理解啓発を行う。	3.9	○キャリア通信を定期的に発行している。掲示板も記事（生徒のレポート等）を随時更新している。	3.7	○キャリア通信を毎月1回発行できた。 ☆9カ年を見通したキャリア教育を計画的に実施したい。 ☆キャリアコーナーをもう少し目につく場所に移動してはどうか。	
		②校内掲示板の「キャリアコーナー」を充実させ、生徒の関心を高める。	3.7		3.3		
	3 ボランティア活動の推進	①年2回、教育課程の中に地域清掃の時間を設定し、全校生徒で実施する。生活委員会の生徒による計画・運営を支援する。	3.4	○1学期に榎原駅周辺を、2学期に榎原神社の清掃を行った。そのほかに、地区駅伝大会時にも運動公園の清掃を行った。 ○朝の奉仕活動について、意義やルールが生徒の中であいまいになりつつあるので、生徒会役員で対策を協議し、全校生徒で積極的に取り組める状況を作っていきたい。	3	☆地域清掃の時間は、効率的な運営が必要である。どのような活動が必要かを検討する。 ☆生徒の登校時刻が全体的に遅くなってきており、係の生徒が呼びかけても全体の動きが鈍くなっている。 ☆朝の奉仕活動への取組が甘い生徒がいる（おしゃべり等）。	
		②朝の奉仕活動への積極的参加を促す。	2.7		2.7		
	4 図書司書との連携による読書活動の推進	①朝読書の時間等を活用し、生徒一人あたり10冊以上の本を読むことを目標とする。	3.4	○朝の読書の時間は、生徒は熱心に本を読んでいる。旅読ビンゴ等の校内の取組にも積極的に取り組んだ。1・2学期にそれぞれ1回ずつ、小学校での読み聞かせが実施できた。 ○職員については図書担当が中心となって進めている。全職員による関わりについて、担当が働きかけをしていく。	3.2	☆読み聞かせについては学級担任の関わり方を工夫したい。	
		②図書司書と連携して、校内ビブリオバトルを実施し、生徒の読書意欲を高める。	3.6		3.4		
		③生徒による小学校児童への読み聞かせを年2回実施する。図書司書と連携して選書を行う。	3.8		3.3		
	「わかる」、「できる」を実感できる授業実践により、学ぶ楽しさや進んで学ぼうとする意欲を育てる。	5 教職員の資質・指導力向上を図る研修の充実	①対外的な研修会に積極的に参加し、その内容を校内研修において全職員で共有し、授業改善に生かす。	3.3	○1学期には研修報告の時間を確保し、対外的な研修会の内容について全職員で共有できた。2学期は時間の確保が難しかった。 ○毎週金曜日に「生徒理解（生徒指導等に関する情報交換の時間）」を実施し、その後の指導・支援に生かしている。	3	○対外的な研修会に積極的に参加し、職員間で内容を共有できた。 ○いじめ等への対応について、全職員で取り組むことができた。 ☆生徒に関する共通理解は図られているが、何をポイントに指導するかの話し合いの時間をもつことができるとさらによい。
			②毎週金曜日に「生徒理解の時間」を設定し、生徒の状況を全職員で共通理解し、授業をはじめとする教育活動全般にわたっての指導・支援にあたる。	3.8		3.7	
		6 個別指導の充実と効果的な家庭学習の推進	①配慮を要する生徒について全職員で共通理解し、授業における個別指導またはT.T.（ティーム・ティーチング）による指導を行う。	3.4	○授業等における個別指導（T.T.による指導を含む）は効果が見られる。 ○個別指導や支援、配慮等が不足している感じることがあるので、他の職員からのアドバイス参考に、改善していく。 ○「家庭学習の手引き」を年度はじめに確認できたが、年度途中での指導が十分でなかった。再度確認し、指導していく。	3.2	○配慮を要する生徒への個別指導は効果があった。 ☆放課後の個別学習について、教科担任による指導の見届けをお願いしたい。 ☆計画的な家庭学習については、個に応じた学習スタイルを、保護者の協力を得ながら行っていく必要がある。 ☆家庭学習については、学級担任が日頃から指導しているが、生徒の意識が高まるには至っていない。 ☆学級活動の時間の確保、学習委員会による取組、家庭学習徹底週間の設定等を行うことで、家庭学習の充実が図れるのではないかと。 ☆家庭学習に関する指導が不足していた。家庭への啓発も必要である。学級懇談の内容に入れる。
②「家庭学習の手引き」を年度初めに生徒に配付し、各教科・各学級において指導する。			3.1	2.8			
③計画的に家庭学習を進められるよう、定期テストに向けて生徒に計画を立てさせ、学級担任が点検・助言を行う。			3.4	3			